

こおり未来会議（9月26日開催）で頂いたご意見

1. 男性（桑折町商工会）

- 4号線西側に子どもが遊べる場所が欲しい。あれば全世代健やかに過ごしていける。
- 小児科の充実
- 制服支給事業には大変満足。引き続きお願いしたい。
- 伊達桑折 IC 周辺の土地開発について物流拠点が整備されれば、商工の力になる。企業誘致を。
- 町が好きだから戻ってきた。子どもたちにも町の商店を知って利用してもらうことで、10年後に戻ってくることを期待する。
- 子どもたちが町を如何に好きになってもらえるか、30代40代の使命である。
- 安全安心について。小中学校周辺の安全運転を啓発していきたい。

2. 男性（桑折工場協会）

- 町のキャッチフレーズとしては「行きたい町住みたい町」
- 相馬福島道路及び伊達桑折 IC 周辺は企業としてもビジネスチャンスが広がる。町内企業が町外に出ていかないことをお願いしたい。
- 商業施設については、買い物だけでなくレジャーや学びの要素が必要であり、充実していれば町に足を運んでもらえるのでは。
- 福島蚕糸跡地の活用
- 町外の人に来てみたいと思える内容で賑わいイベントをより多く行えば、発展できる。1年を通して町をアピールできるものがあれば来てもらえる。
- 半田山自然公園の整備（キャンプ施設の充実⇒来町⇒定住へ）

3. 男性（桑折町社会福祉協議会）

- 穏やかな桑折町が好き。伊達崎地区などは、子どもが戻ってこないと人が増える要素がない。戻る場所があるという郷土愛を育む教育が大事であり、ふるさと回帰意識の醸成につながると思う。
- 伊達崎地区は台風災害等の被害を受けやすい。ハザードマップに加えさらに安心できる対策をお願いする。災害に強い町というイメージが、移住定住の促進につながると思う。

○町長

- 産婦人科や小児科がない。要望の根底には、「安全・安心」と捉えている。藤田病院医師の配置を要望しているが、リスクの高い分野への医師の成り手が不足している状況だが、引き続きしっかりと取り組んでいく。
- 学校周辺の交通ルールや、ゴミのポイ捨て、犬の糞放置などモラルが低下してきている。再認識をしてもらう場面が必要であると考えている。
- 昔は、公園など無くても子どもだけで遊んでいた。今は親と接する時間が重要な時

代。場の提供についても考えてみたい。

- 伊達桑折 IC が整備され大変便利になった。災害時避難などにも利用しやすくなっている。
- IC 周辺への商業施設建設については、情報がなく、コメントを差し控えるが、商業施設+遊び+食べる+学ぶなど複合施設となることがキーポイント。福島蚕糸 2 ha の土地は大変貴重な土地である。商業施設を含め、家族で出かけられる施設もいいのではないかと考えている。賑わい創出など使い方をしっかり検討していく。
- 伊達崎地区については、湛水防除の計画を進めている。もう少し待っていただきたい。

4. 男性（PTA 連絡協議会）

- 現状の桑折町が好き。
- 大学で県外へ出たが就職は地元と決めていた。子どもたちが育って町へ戻ってくるような町づくりに期待したい。
- 福島市では制度として設置しなければならない、いじめに関する第三者委員会を設置せずに、ある事案の対応にあたったというような話を聞いた。桑折町は困っている人に手を指しのべる町であってほしい。やさしい施策を展開してもらいたい。

5. 男性（醸芳幼稚園 PTA 会長）

- 町に来て 10 年、今子育て中で忙しく、将来のまちを考えたことはなかった。
- 子どもを連れて遊びに行く場所が見当たらない。保原や十六沼にあるような遊具のある公園が欲しい。
- 近隣に産婦人科が無くなってしまった。妊娠後期には、自力で通うのは難しいので、妊産婦に向けた送迎支援などがあればと考える。また、子を産む機会を増やすために、出産祝い金等の施策もあったらいいのではないかと思う。

6. 男性（社会福祉法人コクーン）

- 子育て中に、遊ぶ場所に困った。安全に安心して遊べる魅力的な遊具のある公園ほしいと思う。
- 役場新庁舎に期待している。現役場庁舎跡地は、町民の意見を取り入れながら有効活用を図ってほしい。また、空地となっている蚕糸跡地も管理が不適切。利活用策を進めなければならないと思う。
- 蚕糸跡地公園の管理について、近隣の飲食店利用者と思われる車が駐車されているのが気になる。
- 介護に従事する人が少ない。ボランティア活動の活発化など、子どもと高齢者の触れ合いの場を作ってほしい。
- 高齢者の免許返納は、後の移動に不安があり進まない。返納を促進する環境整備、サービスの充実が必要だと思う。

- 町民の健康づくり、予防介護に資する取組みが必要であると思う。
- ボランティアで町づくりに貢献できる仕組みづくりが必要であると思う。

○町長

- 子どもたちは、保護者同様、地域や町にとっても宝。将来を逞しく生き抜く力の子を共に育てていきたい。
- 公園については、検討してみたい。
- 何故か桑折に帰ってきたいという気持ち強いには、何かある。住みやすい町にしていかなくは、と頑張ってきた大人たちの背中を見て、帰ってきている。我々に何ができるのか考え、しっかりとした施策を展開してまいりたい。
- 子どもの出生数が少ないために経営が成り立たず、産婦人科が撤退している。妊婦支援としての足の確保も検討してみたい。
- 出産祝い金については、善し悪しがあると思う。何か手立てを考えたい。
- 介護保険制度も20年が経過した。在宅介護が難しい時代に突入した。不健康は、自分だけでなく、家族にも負担がかかる。若い世代の人も含め、健康寿命を延ばし、予防介護に努める。健康づくりが次の計画でも大きな柱になる、着手しなくてはならないと健康楽会を立ち上げ事業を実施（ラジオ体操、ウォーキング、百歳体操）した。しっかりと取り組んでいく。

7. 女性（公立藤田総合病院）

- 町外から嫁いできたが、桑折町は地元愛が強いと感じた。子育てしやすい町だと思う。
- 藤田病院から産科がなくなり、隣の市の産婦人科も閉院するなど、不安である。
- 乳幼児健診、医療費助成は手厚い。また、給食費助成、制服支給、さらにはマスクの配布など、町の子育て支援は近隣市町と比較しても充実している。少子化対策には引き続き子育て支援施策を重視していくことが必要だと思う。
- 定住化を促進するためには、町に戻って働ける環境や、町の魅力を知って町を好きになってもらう取組み（地域資源を生かした事業、シティプロモーション等）が必要だと思う。
- 交通アクセスの良さを生かした企業誘致を進めてほしい。
- スポーツ施設が整っている。スポーツ合宿の誘致ができれば、若い人が訪れ、活気にあふれるのではと思う。
- 屋外で運動ができるバスケットコートなどがあれば良い。
- 図書館がさらに充実されればと思う。
- 保育所のオムツ持ち帰りは不衛生。改善してほしい。

8. 女性（女性団体連絡協議会）

- 生まれは桑折町。ママネットワークで「子育てするならこおり」と勧められ戻って

きた。独身の時は何もないと思っていたが、給食はアレルギー食にもきめ細かく対応をしてくれるなど、支援が手厚い。子どもを安心して育てられると改めて気づいた。

- 桑折町は子育てしやすいと評判であり、子育てするなら桑折町と思い帰ってきた。
- アレルギーがある子どもへの給食対応など、町の子育て支援や教育を評価している。
- 桑折町は安心して住みやすい町だ。
- 商店街の裏道が暗くて怖い。夜にウォーキング、ジョギングする愛好者の期待に応えてほしいと思う。
- コロナ禍の中でアウトドアでの活動に目が向けられている。半田山自然公園があるのに、クマガでるため使えなくなっている。使えるようになれば、他所から人が来る。山間部ではないところにも安心してキャンプできるような場所があってもよい。
- 仕事や家事、子育てなどに尽力しているママに向けて、例えば「ママ大変手当」というような形で、お店でドリンクサービスを受けられる的な優待券などを発行するのはどうか。
- 小中学校の女子の制服にパンツスタイルを導入することで、いじめや犯罪事案の抑止につながるものとする。
- 横断歩道に旗を設置し、交通安全に対する習慣づけをお願いしたい。

9. 女性（一般公募）

- 関西出身（和歌山県）。主人が桑折で移住してきた身だが、3年目くらいでやっと地元に着いてきたと思う。
- 桑折は暮らしやすい町、10年後の町、「遊びに来て」と、何か自慢できるものがある町になって欲しい。県外から見ての福島県のイメージは自然・果物・歴史。桑折には、すべてがある。半田山や西山城からの景色も素晴らしい。県外に発信できる、自慢できる強み。ぜひ、シティプロモーションして欲しい。また、そのためにも、今ある良さを残して、かわらずにいてほしい。
- 小さい町ゆえに町の取組みが見えやすい。町に一体感があると思う。これも町の良さである。
- 新しく変わることも必要。憩いの場が欲しい。子どもから高齢者まで気がねなくふらっと立ち寄り、交流できる他にない施設として、カフェや屋内遊び場、物産コーナーなどPRの場もある図書館とか、複合的な機能のある施設があると良いと思う。

○町長

- 子育て支援については、一定の評価をいただいております、取組みが間違いでなかったと思っています。
- 子どもは大切な財産。しっかり守り育てられるよう、子育て支援を継続強化していく。
- 残していくべきは自然・歴史だと思っております、守っていかなければならない、守っ

ていきたい。

- 集いの施設としての図書館は、果たす役割が大きい。例えば「絵本」は負けないなど、何か特化するものがあればと思っている。
- ママが集える場所としては、商業施設だけではダメだと感じている。学び、集い、子育てなど、複合的な施設を誘致したい。

10. 女性（20代若者）

- お出かけ先には選ばれる町になって欲しい。（行きたいと思える町）
- 最近、レジャーやチアーズがオープンするなど、若い人が集まれる施設ができて嬉しく思っている。ただし、ランチ以外にも楽しめる所、半日以上時間を過ごせるような場所があると良い。提案として、駅周辺に観光客向けの交流施設があると良い。駅は町への入り口なので、来町者が桑折の物産を購入できる広場や、カフェなど町民にとってもコミュニケーションの場所になると思う。
- 併せて、電車待ちの時間にゆっくりできる場所があればと思う。
- 町の活性化は町民のため。町民に改めて町の魅力を気付いてもらうことが大切。「桑折町はいいところ」と言われれば、再確認できる。
- 若い人たちが町に帰って来たくするためには、頑張っている姿を発信することが大切。

11. 男性（一般公募）

- 宮城県出身。妻が桑折出身、果物が美味しい町。
- 子どもを出産すると、預かってもらっていた上の子が預けられなくなる。改善してほしい。
- 子どもの通学のために、安全安心して歩ける歩道が必要だと思う。
- 教育における英会話授業の充実。オンラインの活用で、東京や海外とつながりなど、様々な学習機会の充実を目指して欲しいと思う。

12. 男性（一般公募：楽天野球団）

- 社会人4年目、26歳独身男性の目線として意見したい。
- 「住んでみたい 行ってみたい」の目線から。学生時代、東京に出て感じたことは、都会の人は、地方で何かをすることに魅力を感じている。上町チアーズのような店ができたことは良いと思うが、半日過ごすには物足りなさを感じる。
- 農地付きの空き家を活用して、BBQ や農作業などを仲間と気軽にできる場所を作ってはどうかと思う。景色がきれいなところなどが好まれる。都会にない魅力を生かしてほしい。町の人との交流や、町の魅力、町の暮らし等を知る機会となり、リフレッシュの場から「住んでみたい」というきっかけづくりになる場所になればと。
- 街灯が暗い所がある。ウォーキングやジョギング愛好者が安心して取り組める環境を整えれば、町民の健康増進にもつながっていくと思う。

○町長

- 町に滞在して、町を知ってもらい、また行ってみたいと思ってもらえるような周遊、回遊の物語性を創ることが必要。工夫していく。
- 半田山は貴重な場だが、熊の発生がネックとなっている。現在、「かわまちづくり事業」により、阿武隈川周辺を整備している。広大な花畑を創る予定なので、期待してほしい。カヌー練習場など、治水だけでなく利水も必要と考えている。
- 駅は、まさに町の顔。いろいろ考えている。駅前倉庫にライブハウスなど、若い人の集まる場所について、英知を結集して、何かを考えていきたい。
- 教育について、英語教育では受験料助成や指導員の配置、ICT教育としてギガスクール構想を進めており、来年2月までにタブレットを配布しているが、アドバイザーの配置や指導力の向上が必要と考えている。桑折ならではの教育を目指していく。
- 暗い道など、街灯の整備については考えていきたい。
- 人は魅力を求め動く。町に来てもらうために、歴史、自然の再認識や再磨き上げにより、新創造をしたいと思っている。また、お試し住宅の2号、3号も造ってきたい。

○奥原総合計画審議会会長による講評

- 今日総合計画審議会メンバーより若い世代からの視点から意見を伺えた。今回出てきた意見は大きく分けると以下の4点。
 - ①若い世代の方は、自分たちが自慢、ワクワクできる町にしたいという意見が多い。大学生は駅でゆっくりできる拠点を求めている。また、若者は町内で半日回遊できる拠点を求めているため、これらの整備が必要。
 - ②子育て世代は、子どもが安心して遊べる施設、安心して産んで育てられる環境の整備による子育て世代へのさらなる充実を求めている。
 - ③インターチェンジなどの活用も踏まえて、これらの活動が産業として成り立つことの仕組み作りが必要。
 - ④体と心の健康づくりが必要。
- これらの実現のため、まずは行政側で計画作りが必要だが、今までと異なり、モノを生産する時代ではなくなっている。今までのストックを有効活用することが大事。例えば道路を自動車と歩行者用を分離し、子どもの遊び場、人の交流の場、物品販売の場、などの多機能的に使用する。全国的にも始まっているので地域が一体になって進められると良い。
- お金がだせなくても知恵を出してみんなの意見が実現できるように変わっていく必要がある。例えば、本屋がないのであれば、図書館で本の販売や、飲食ができる多機能的な図書館にする。本、物品の売買は、町内の商店が出店できるスペースを作り、時間のある人が担うことで担い手を育てる、といった夢を実現するために地域

が横断的に取り組み解決する手段を考えることが必要。このような地域独自のプロジェクトにより、桑折町ならではの個性的なまちづくりを実現する。これらを支える活動に向けて参加者も一緒に取り組んでいけると良い。